

製品名: サイトケラチン 16 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09732**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT16
別名	KRT16; KRT16A; Keratin; type I cytoskeletal 16; Cytokeratin-16; CK-16; Keratin-16; K16
遺伝子 ID	3868.0
SwissProt ID	P08779
免疫原	抗血清はヒトケラチン 16 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 421-470

背景

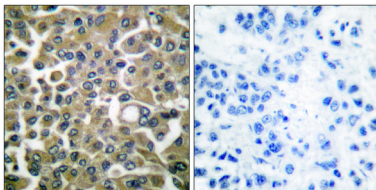
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ケラチン遺伝子ファミリーのメンバーです。ケラチンは、上皮細胞の構造的完全性を担う中間径フィラメントタンパク質であり、サイトケラチンと毛髪ケラチンに分類されます。I型サイトケラチンの大部分は、異型

ケラチン鎖が対になって配列した酸性タンパク質で構成され、染色体 17q12-q21 の領域に密集しています。このケラチンは、食道、舌、毛包など、多くの上皮組織においてケラチン 14 と共発現しています。この遺伝子の変異は、I 型先天性爪厚化症、非表皮剥離性掌蹠角化症、および片側性掌蹠疣贅性母斑と関連しています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: KRT16 遺伝子の欠陥は、先天性爪厚化症 1 型 (PC1) [MIM:167200] の原因の一つです。PC1 は、ヤダソン・レワンドフスキー症候群としても知られています。PC1 は、爪肥厚性爪異栄養症を特徴とする常染色体優性外胚葉性異形成症であり、爪甲拘縮 (爪の肥厚と湾曲の増加)、掌蹠角化症、毛包性角化増殖症、口腔白質角化症を引き起こします。手足の多汗症も通常認められます。、疾患: KRT16 遺伝子の欠陥は、片側性掌蹠疣贅性母斑 (UPVN) [MIM:144200] の原因の一つです。UPVN は、右手のひらと右足の裏の一部に局所的な皮膚の肥厚が生じるのが特徴です。、疾患:KRT16 の欠陥が非表皮剥離性掌蹠角化症 (NEPPK) [MIM:600962] の原因です。NEPKK は、口腔、性器、毛包の病変を伴う限局性の掌蹠角化症を特徴とする皮膚疾患です。、疾患:KRT16 と KRT17 は、子宮頸部の化生や癌、尋常性乾癬などの病的な状況でのみ共発現します。、質量分析: PubMed:11840567,その他:細胞骨格ケラチンと微小原線維ケラチンには、I (酸性) と II (中性から塩基性) (それぞれ 40~55 kDa と 56~70 kDa) の 2 種類があります。、類似性:中間径フィラメントファミリーに属します。、サブユニット :I 型ケラチンと II 型ケラチンのヘテロ二量体です。KRT16 は KRT6 異性体と会合します。TCHP と相互作用します。TRADD と相互作用する。、組織特異性: 毛包、爪床、粘膜重層扁平上皮、および基底上皮である口腔上皮および掌蹠表皮に発現する。また、汗腺管および乳腺管の管腔細胞にも存在する。、

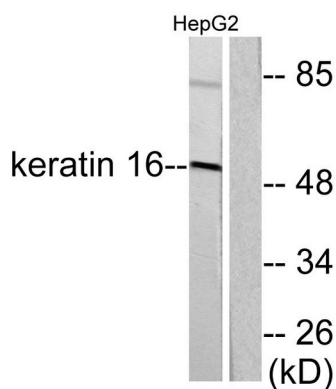
研究分野

シグナル伝達

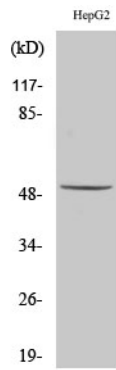
画像データ



ケラチン 16 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ケラチン 16 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



サイトケラチン 16 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析